



世界最大の花展で高い評価

## ブランド化へ大きな一歩

に品種改良した品種が人気を呼んだ。ヨーロッパの品評会で金賞を獲得し、市場でも高く評価された。県内では、これらの品種を導入する鉢物生産者が増加し、あじさいの産地として全国に知られるようになった。

### バブル崩壊で価格が下落

平成10年頃から花業界にもバブル崩壊の影響が現れ、作れば売れた鉢花も価格が下落した。あじさいも例外ではなくその波を大きく受けることとなった。その一方で、既存のあじさいにはなかった八重咲きの品種が登場し

花に特有の厳しい現実が立ちふさがった。花はファッション性が高く流行に敏感で、消費需要と市場の動向にいち早く反応しているかどうか大きなカギとなってくる。将来



連載 挑戦

～県農業試験場のプロジェクトX～③

八重のあじさいを生み出せ

## 美しく輝く「きらきら星」

「母の日」の贈り物に人気のあじさい。栃木県は全国有数の産地として知られる。しかし、バブル崩壊による消費低迷から価格が下落した。そんな中、珍しい八重咲きの品種が登場し始め、希少性から人気が高まり、高値で取引された。

「希少価値のある八重の花を生み出せ」。県農業試験場の挑戦が始まった。八重の遺伝はどうなっているのだろうか？ 交配と育種が続けられたが、新品種への道は遠く、一時試験は中断された。だが、研究スタッフはあきらめなかった。粘り強い努力によって平成23年5月、ついに美しく咲く八重のあじさいが誕生、「きらきら星」と名付けられた。

昭和40年代から栃木県では鉢花生産が増加し、シクラメンを経営の柱とした全国有数の産地が形成された。シクラメンは12月を中心に出荷されるが、鉢物農家では生産施設を効率的に利用するため様々な種類の鉢花を組み合わせて栽培を行っている。その1つにあじさいがあり、春から初夏にかけての重要な品目となってきた。

鉢物農家で栽培されているあじさいは、西洋あじさい（ハイドランジア）と呼ばれ、様々な花色や花型のタイプがあり、これまでの日本のあじさいとは異なる。この西洋あじさいは、経済成長とともに需要が伸び、特に母の日の贈り物として急速に人気が高まり、県内でも生産が増え主力品目となっている。

昭和60年代に入り、花が大型で濃いピンクが特徴の「ピーチ姫」、花の縁の白い覆輪が特徴の「フラウ」シリーズなど、県内の生産者が独自

### 八重の花へ挑戦始まる

始め、希少性の高さから人気が高まり、高値で取引された。高値が期待できる八重咲きあじさいだが、この形質を持つ品種を作り出すことは非常に難しいとされた。

八重がどうして出せないのか？

あじさいの八重の遺伝はどうなっているのか？ 文献を調べたが知見が無いことから、実際に八重咲きのあじさい育成に取り組むことで遺伝のしくみを明らかにし、生産者の育種にも役立てようと交配を試みた。平成11年に八重咲きと覆輪の系統を交配し、得られた6個体について、開花した平成13年に花型と花色を確認したが、すべて赤紫の九重咲きだった。八重は遺伝的に劣性である可能性が高いと考え、八重の形質を発現させようとその花の自殖を行ったが、得られた個体はわずか7個体のみであった。